

## 茨城県民の生活時間と生活行動（令和3年社会生活基本調査結果概要）について

総務省統計局が令和4年8月31日に公表した令和3年社会生活基本調査結果（生活時間及び生活行動に関する結果）について、本県分の概要を取りまとめましたので公表します。

### ★ここがポイント

- ・本県に住んでいる10歳以上の人について、行動の種類別に週全体平均による1日の生活時間の配分を平成28年の前回調査時と比べると、休養・くつろぎの時間、睡眠時間などが増加した。
- ・15歳以上の有業者の仕事時間は、男性が6時間23分、女性は4時間50分となっており、平成28年と比べると男性は22分の減少、女性は11分の増加となった。
- ・「学習・自己啓発・訓練」の行動者率（過去1年間（令和2年10月20日～令和3年10月19日）にその活動を行った人の割合）は36.5%で、平成28年と比べて2.3ポイント上昇した。
- ・「ボランティア活動」「スポーツ」「趣味・娯楽」「旅行・行楽」の行動者率は平成28年と比べて低下した。うち「旅行・行楽」の行動者率は45.0%で、28.4ポイントの大幅な低下となった。

#### 1日の生活時間の配分の調査時期

1日の生活時間の配分は、2021年10月16日から24日までのうち調査区ごとに指定された2日間（生活時間の指定日）について調査した結果である。この時期は、新型コロナウイルス感染症がいわゆる第5波として拡大した後、各地に順次発令されていた「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」等が2021年9月末をもって全ての地域で解除された直後となる。

#### 1年間の主な生活行動の調査時期

1年間の主な生活行動は、2021年10月20日から2021年10月19日までの過去1年間の自由時間において該当する行動を行った状況について調査した結果である。この時期は、2回の「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」を含んだ期間となっていた。

## 1 生活時間に関する結果

### (1) 1日の生活時間の配分

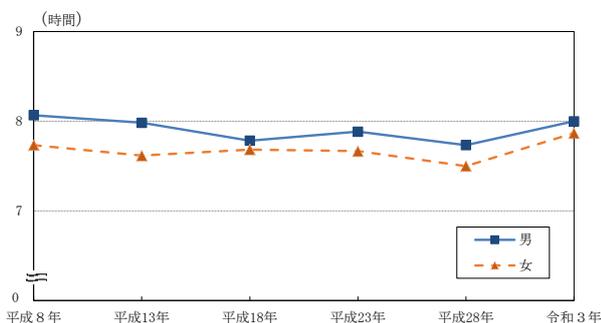
○平成28年と比べ休養・くつろぎの時間は21分の増加

○減少傾向で推移していた睡眠時間が増加に転じる

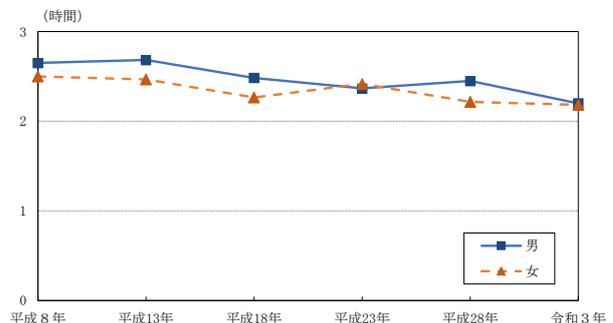
本県に住んでいる10歳以上の人について、行動の種類別に週全体平均による1日の生活時間をみると、睡眠時間が7時間56分、仕事時間が3時間29分、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が2時間12分などとなっている。

主な行動の種類について、過去25年間の推移をみると、休養・くつろぎの時間はおおむね増加傾向となっている。一方、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、交際・付き合いなどの時間は減少傾向となっている。また、睡眠時間については減少傾向で推移していたが、令和3年は増加に転じた。

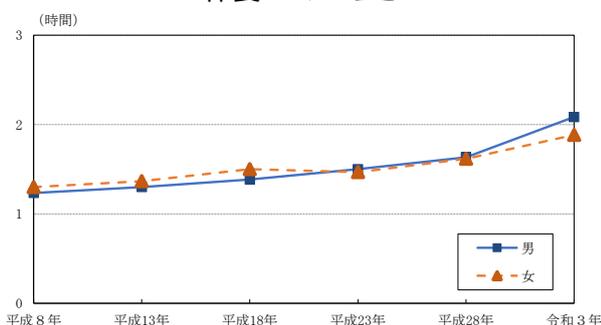
睡眠



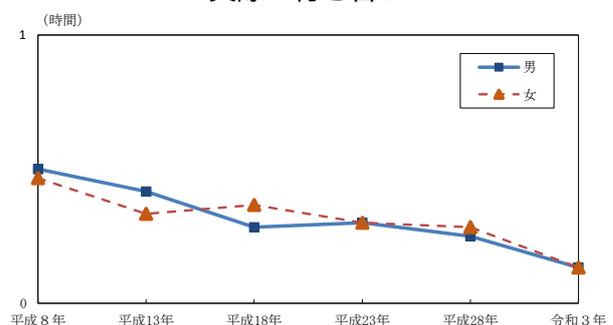
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌



休養・くつろぎ



交際・付き合い



## (2) 仕事時間

○5年前に比べ男性の仕事時間は22分の減少、女性は11分の増加

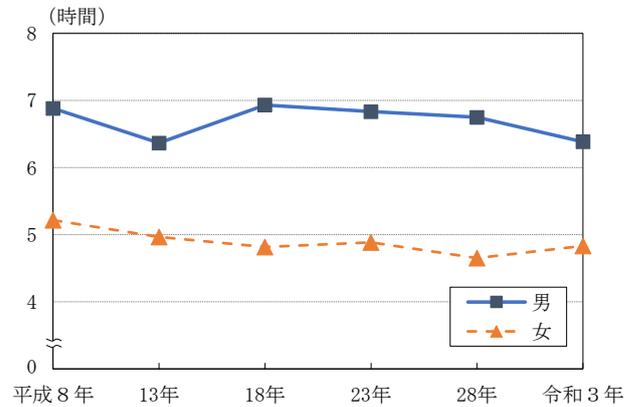
本県の有業者（15歳以上）の仕事時間についてみると、男性が6時間23分、女性が4時間50分と男性が女性に比べ1時間33分長くなっている。

平成28年と比べると、男性は22分減少したのに対し女性は11分の増加となり、男性と女性の仕事時間の差が大きく縮小した。過去25年間の仕事時間の推移を男女別にみると、平成8年に比べ、男性は30分の減少、女性は23分の減少となっており、男女共に減少傾向となっている。

男女別仕事時間の推移  
(平成8年～令和3年) - 週全体、有業者  
(時間、分)

	茨城県		全 国	
	男	女	男	女
平成8年	6.53	5.13	7.00	5.11
平成13年	6.22	4.58	6.48	4.51
平成18年	6.56	4.49	7.00	5.00
平成23年	6.50	4.53	6.56	4.50
平成28年	6.45	4.39	6.49	4.47
令和3年	6.23	4.50	6.27	4.42

男女別仕事時間の推移  
(平成8年～令和3年) - 週全体、有業者  
(時間)



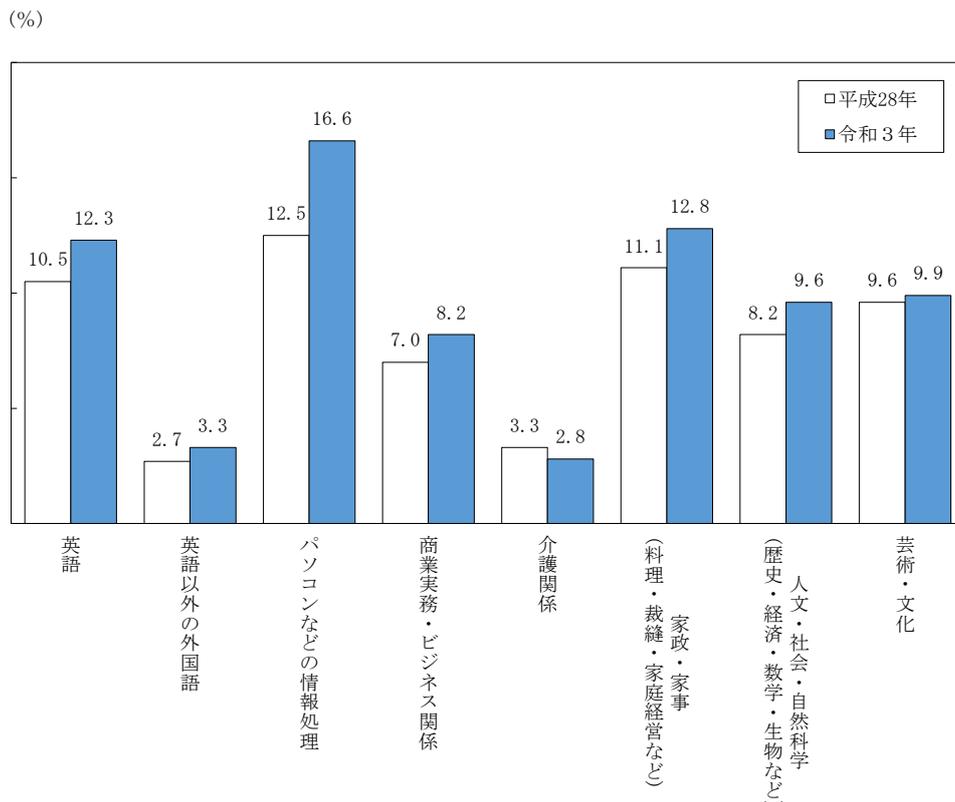
## 2 生活行動に関する結果

### (1) 学習・自己啓発・訓練

○「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は36.5%で、5年前より2.3ポイント上昇

「学習・自己啓発・訓練」について、行動者率（過去1年間（令和2年10月20日～令和3年10月19日）に何らかの種類の活動を行った人（10歳以上）が10歳以上人口に占める割合。以下同じ。）を種類別に平成28年と比べると、「パソコンなどの情報処理」は4.1ポイントの上昇と最も上昇幅が大きく、次いで「英語」は1.8ポイントの上昇、「家政・家事」は1.7ポイントの上昇となるなど、ほとんどの種類で上昇となっている。一方、「介護関係」は0.5ポイントの低下となっている。

「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（平成28年、令和3年）

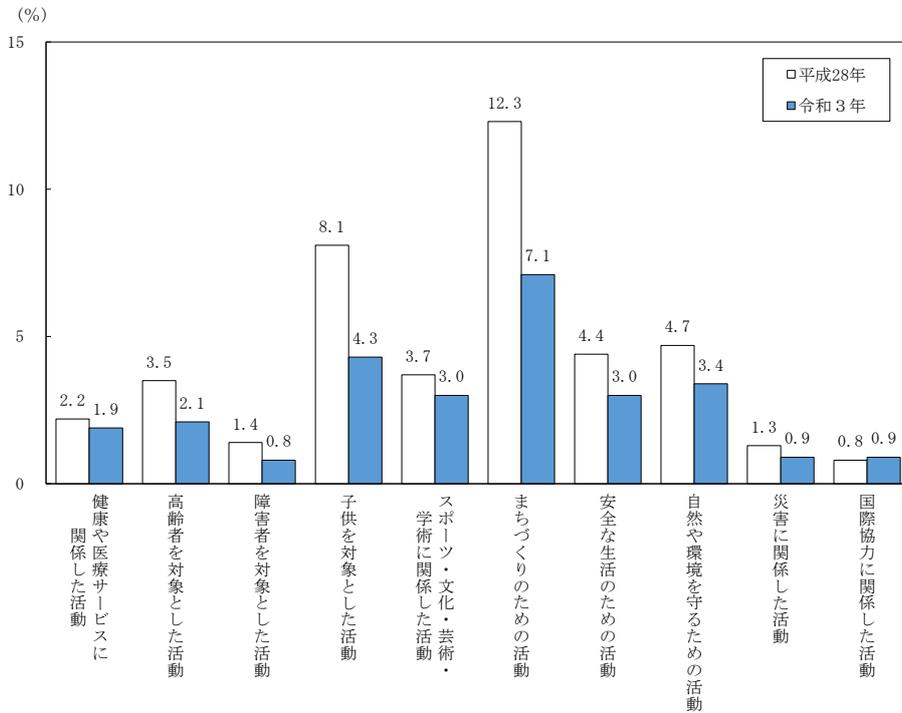


## (2) ボランティア活動

○「ボランティア活動」の行動者率は17.1%で、5年前より9.1ポイント低下

「ボランティア活動」の種類別行動者率を平成28年と比べると、「まちづくりのための活動」は5.2ポイントの低下、「子供を対象とした活動」は3.8ポイントの低下、「高齢者を対象とした活動」及び「安全な生活のための活動」は1.4ポイントの低下となるなど、幅広い活動で大幅な低下がみられる。

「ボランティア活動」の種類別行動者率（平成28年、令和3年）

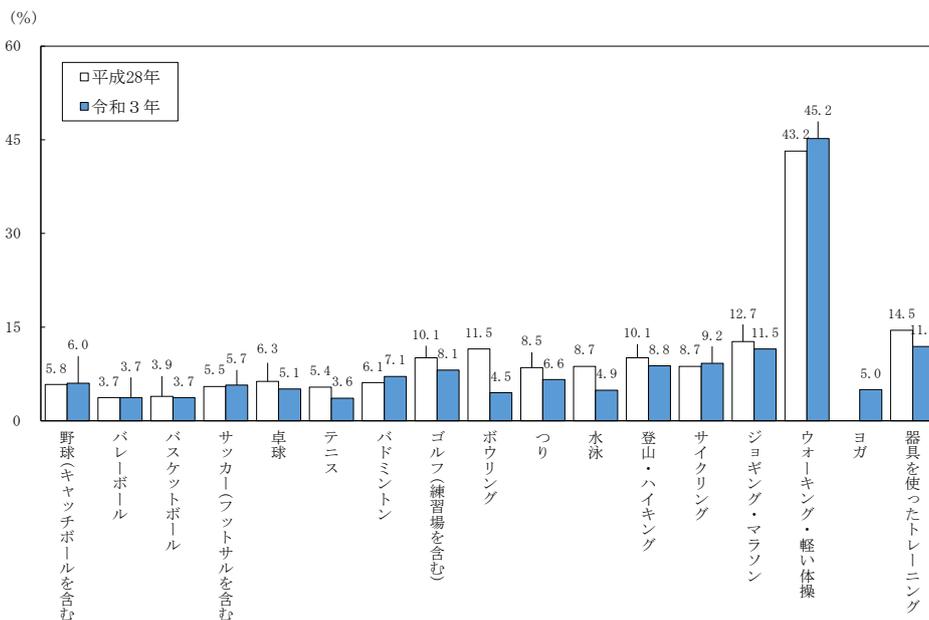


## (3) スポーツ

○「スポーツ」の行動者率は65.8%で、5年前より2.7ポイント低下

「スポーツ」の種類別行動者率を平成28年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」は2.0ポイントの上昇、「サイクリング」は0.5ポイントの上昇となっている。一方、「ボウリング」は7.0ポイントの低下、「水泳」は3.8ポイントの低下となるなど、多くのスポーツで低下となっている。

「スポーツ」の種類別行動者率（平成28年、令和3年）



注1)「ヨガ」は令和3年に固定項目に追加

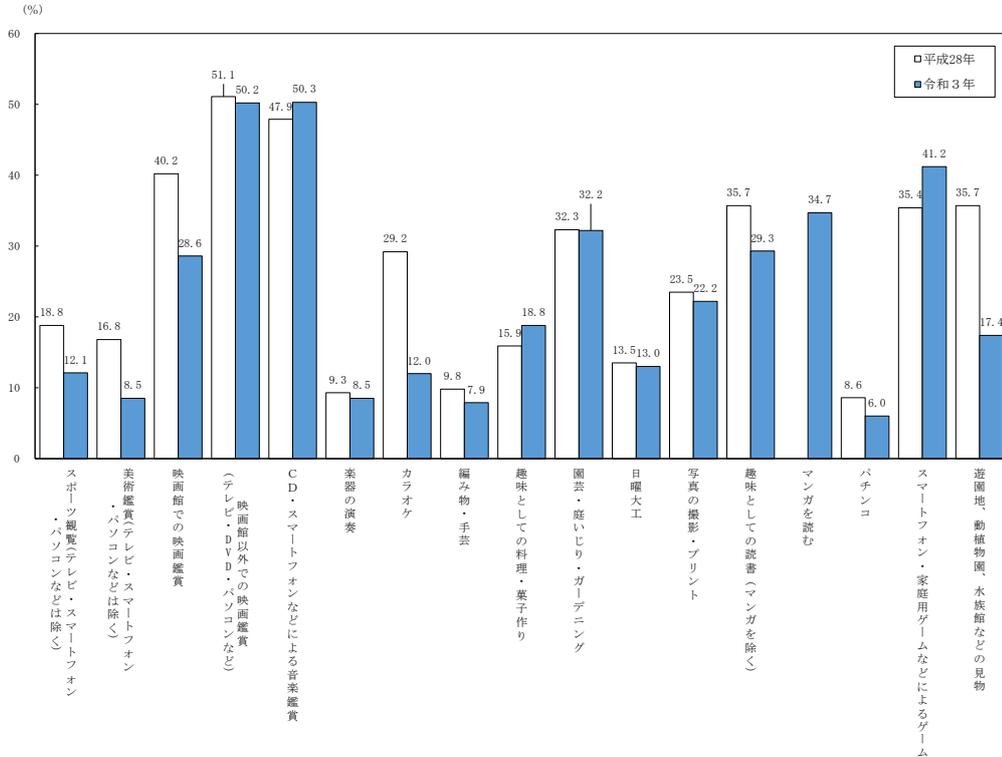
注2)「スポーツ」の種類は男女総数の行動者率が3.5%以上の種類を表章

#### (4) 趣味・娯楽

○「趣味・娯楽」の行動者率は85.3%で、5年前より2.2ポイント低下

「趣味・娯楽」の種類別行動者率を平成28年と比べると、「スマートフォン・家庭用ゲームなどによるゲーム」は5.8ポイントの上昇、「趣味としての料理・菓子作り」は2.9ポイントの上昇となっている。一方、「遊園地、動植物園、水族館などの見物」は18.3ポイントの低下、「カラオケ」は17.2ポイント、「映画館での映画鑑賞」は11.6ポイントの低下とそれぞれ大幅な低下となっている。

図-6 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成28年、令和3年）



注1) 「趣味としての読書(マンガを除く)」は、平成28年は「趣味としての読書」としてマンガを含めて把握しており、マンガを除いている令和3年は定義の変更があるため比較には注意を要する。また、「マンガを読む」を令和3年に固定項目に追加している。

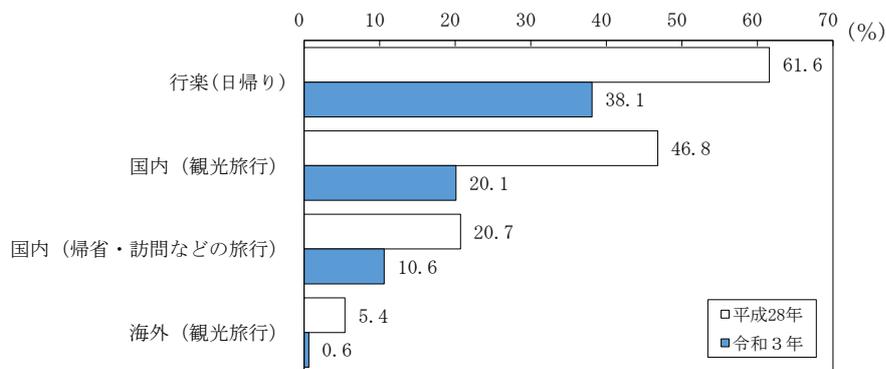
注2) 「趣味・娯楽」の種類は男女総数の行動者率が5%以上の種類を表章

#### (5) 旅行・行楽

○「旅行・行楽」の行動者率は45.0%で、5年前から28.4ポイントの大幅な低下

「旅行・行楽」の種類別に行動者率を平成28年と比べると、行楽(日帰り)が23.5ポイントの低下、国内(観光旅行)が26.7ポイントの低下となっているなど全ての種類で低下している。

図-6 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成28年、令和3年）



詳しいデータ・内容等は、「いばらき統計情報ネットワーク」を御覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/syakai/syakaichor3/index.html>